

みんなで心を一つに

五年二組 H・H

パンパンパン、練習をしていると、先生が手をたたきながらみんなの方を見ていました。

「ハイ、今から最初から合わせます。」
と、先生が言いました。歌と合奏を合わせた後にNNさんが、

「あのね、Jのところ、木琴と鉄琴がかけあわな
いといけないから、こんなふうに。」

と言いながら、たたく速さを教えてくれました。
私とAYは、

「ありがとう、教えてくれて。今度から気を付けるね。」

と言いました。教えてもらった後に、AYと二人でNNさんから教えてもらったJのところを二人で練習しました。すると、先生がまたパンパンと手をたたきながら、

「最初からやります。まわりの人の音も聞きな

がらやりましょう。」

と言いました。

合そうをやっている時に、ゆっきNNさんに教えてもらったことを気を付けなきや。と心の中で思いました。わたしは、Gの終わりのところの入るタイミングがつかめなくて、どうしよう。と思うていたけど、そこに入るタイミングは歌の始まるころだったので、心の中で歌えようまく入るかも。と思ったので、やってみると、とってもうまくいきました。他にも苦手なところがありました。心の中で歌えようまくできると分かったので、やってみると、うまくできました。わたしは、よかったです。と思いました。

わたしは、本番でも集中して演そうしたいなと思っています。そして、みんなで心を一つにしてがんばりたいです。

思い出になった小音会

五年 一組 M・R

十一月二十日に、ブリックホールで小音会がありました。小音会には、お母さんと両方のおじいちゃん、おばあちゃんが見に来てくれました。

私は、この小音会に向けて約二ヶ月間練習しました。私たちの合唱は「シング」で、合そうはみんなが大好きな「アナと雪の女王」に出てくる『ありのまま』でした。合そうはみんな知っている曲だったので、長い曲でも合わせやすかったです。それに比べて、合唱はあまり知らない曲だったので、うまくなるまで大変でした。

最初は、授業でしか練習していませんでした。でも、一ヶ月前になっても合そうが合わなかったので、朝練が始まりました。朝練は毎日十五分しかありませんでしたが、私は、毎日十五分

しか練習しないけど、少しずつうまくなっていくなあ。と思いました。音楽の先生も、

「だんだん上手になってるよ。」

とほめてくれました。私は、その言葉にやる気もらいました。私の楽器はアルトアコーデオンでした。アルトアコーデオンは初めて演そうする楽器で、最初は、うまくひけるかなあ。と心配でしたが、同じ楽器の子たちと、

「いいないうだよ。」

というふうに注意し合いながら練習しました。

そんなことを一ヶ月くり返して、二十日の本番の日がきました。先生はもうブリックホールに行っていていなかっただけけど、みんなで心を一つにして演そうできました。みんな、

「よく演そうできたね。」

と言っていました。そして、ブリックホールにみんなで移動しました。

それから、私たちの出番の三つ前にひかえ室に行きました。みんな、

「がんばろうね。」

と言いました。私は、とってもきん張していましたが、しかし、ステージに出ると、すぐになれました。

合唱も合奏も今までよりもうまくできました。うまくできたし、思い出になってうれしかったです。来年の五年生も心を一つに歌ったり演じたりしてほしいです。

小音会

五年 一組 K・T

ぼくは、十一月二十日の小音会までにたくさん練習をしてきました。特に、ぼくはトランペットなので、夏休みも練習しました。

その夏休みのことです。ぼくは、初日の日、
「あ、いよいよか。」と思いながら学校に着き、練習しました。すると、ドをふくとき四人は音が一定なのに、ぼくだけ外れていました。おかしいな。と言われ、他のでふくと一発で出ました。やったあ、これでみんなといっしょだ。と思いました。

二期の朝練が始まると、ぼくは、遊びたいなあ。と思うていましたが、今考えると、とてもないことだと分かりました。それは、この一言から学びました。ある時、トランペットの個別練習の時、

「きみが一番うまいんだからさ。」

というRRさんの普通の言葉がとてもうれしくて、さばらないでよかったという気持ちで自信がつかまりました。

そして、小音会の日がきました。前半が始まり八校目までは、おもしろいな。と思うていましたが、後半に入ってきん張してきてきました。

ぼくたちの番がきました。ぶ台のうらに行きました。内容ははつきりと覚えていて、完ぺきだった気がします。人生で一度の体験は、やはり大事だなと実感しました。

小音会

五年二組

H・R

ぼくは、朝からドキドキしていた。今日は、小音会当日。ドキドキするのは当たり前かなと、がんばってドキドキするのを落ち着かせようとしていた。

家を出て、学校に着くと、みんなきん張も何もせず、いつもどおりで少しホッとした。弁当を食べている時も、

弁当見せて。」

や、

「おまえの弁当、おいしそうだなあ。」
などの話しかけていなかった。弁当を食べ終わりに、いよいよブリックホールに出発した。

着いてから、先生に言われたとおりに座ったり移動したりして、自分たちの座る席に着いた。それから三十〜四十分待って、やっと小音会の演そうや合唱が始まった。南山は十三番目だっ

たので、間がとてもあくかなあと思うと、意外と早くきた。ぶ台うらでは、とてもきん張して、
できる、できる、できる、できる……と心に言い聞かせていた。

南山の番になってステージに上がると、なぜかきん張が少しほぐれて楽しくなってきた。なので、最初から最後までとても上手に演そうができた。

とても上手にできてよかったし、よい体験ができてよかった。

ぎん張する？？」

と、YNちゃんに聞かれました。でも、わたしはコーラスで何回も大会に出ているから、

「ううん、ぜんぜん。」

と首を横にふりながら答えました。会場に入つて、RSちゃんやKTくんにも同じように、

「緊張する？？」

と聞かれました。わたしは、さっきと同じように、

「ううん、ぜんぜん。」

と首をふりながら答えました。すると、HRさんが、

「コーラスでなれとるけん。」

と横からRSちゃんとKTくんに向かって言いました。

しばらくして、ブザーがブーとぴったり一時

に鳴りました。だから、わたしは、うわあ、一時
ぴったりやん。と時計を見ていたので思いまし
た。

それから、他の学校の合唱や合奏を聞いて
いました。知っている曲が多かったので声を出
さずに口を動かしてみたり、NNちゃんとあつ
知ってる。と動きで表したりおどったりしてい
ました。ぶ台うらに行く前のろう下で、RRち
やんから、

「IY。」

と小さな声で呼ばれて、管楽器の人たちといっ
しよに音合わせに行きました。楽屋の前で楽器
をケースから出して準備していました。わたし
は、がんばれ、できるさ。と思いました。楽屋
で、わたしがアコーデオンで出した音に合わ
せてRRちゃんたちが音を出しました。すると、
先生が、

「おお、いいんじゃない。」

と言ったから、わたしは、なぜかおった。と思

いました。

そして、本番になってステージに上がりました。それからアコーデオンを音が鳴らないように注意しながらいすに置きました。シングは先生が笑顔だったので、(上手だったのかな。)と思いました。合その時も、音を鳴らさないようにしんちようにアコーデオンをからいしました。やっぱりきん張はしなかつたけど、上手にできるか心配でした。でも最初の方はうまくできました。だから、よかった。と安心していました。そしたら、むずかしいところで二カ所間ちがえてしまいました。その後は、いつもどおりひけました。演そうが終わってから、YNちゃん
と、

「ねえ、失敗した？」

失敗した。」

とか話していました。

終わりのあいさつをRSちゃんがするからよく見ていました。RSちゃんは耳が赤くなって

きん張していました。だから、二人ともがんばれ。と思いました。

学校に着いて、お菓子がもらえたので、やったあ。と思いました。はじめ演そうが終わった時は、八十五点くらいかな。と思っていたました。でも、全体では百点だったと思いました。ベストじゃなかったけど、楽しめたからよかったです。